

牛込一中だより

新宿区立牛込第一中学校
平成31年度第1号

学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、国際的視野に立ち、心豊かな国民を育成する。

- 一 自ら考え、進んで実行する人 (自立)
- 二 思いやりのある情操豊かな人 (共生)
- 三 心身ともに健康で、明朗な人 (健康)

本年4月に校長として着任いたしました、福田 忠春（ふくだ ただはる）です。昭和22年より歴史を刻む牛込第一中学校の素晴らしい伝統を継承するとともに、令和の時代に教育活動の一層の充実が図られるよう教職員一丸となり尽力してまいります。

桜の花も残る、4月9日、輝く瞳に無限の可能性を秘めた31名の新入生を迎える、平成31年度入学式を挙行いたしました。平成31年度は、全校生徒137名でスタートしました。牛込第一中学校の3年間の生活で、自らの夢の実現に向けて、自分をよく知り、何事にも前向きに努力するたくましさと、豊かな感性を育んでいくことができるよう、全ての教職員で一人一人の生徒にきめ細かく寄り添っていきます。

入学式式辞より(抜粋)

この三年間を有意義に過ごすために、新入生の皆さんに期待することを二つお話しします。

一点目は、自分の頭でしっかりとと考え、判断し、行動できる人になってほしいということです。授業では、常に、「なぜ」「どうして」と自分自身の中に疑問を持ち、その答えを追求してほしいと思っています。自分の頭で真剣に考えたことは、自然と頭の中に残り、他の様々な場面でも応用ができる本当の力となります。部活動や運動会、移動教室、一中祭などの行事でも、授業と同様に、今何をやるべきなのかをしっかりとと考え、判断し、行動できる人になってほしいと思っています。中学校ではじめて経験するものは、最初はどのようにすればよいのか分からぬこともたくさんあると思います。そういう時は、先生や先輩たちに恥ずかしがらずに聞いてください。人から教えてもらうことは決して恥ずかしいことではありません。分からぬことをしっかりと質問し、自分で考えるための材料をきちんと集め、その上でしっかりと考えることは、物事の本質にせまる近道となるはずです。

二点目は、人との出会いを大切にしてほしいということです。「一期一会」という言葉を、皆さん聞いたことがあると思います。人と人との出会いは一度限りの大切なものであると言った意味で使われる言葉が、この「一期一会」です。元々は茶の湯の教えを説いた言葉ですが、たとえ今後、幾度かの茶会を開く機会があるとしても、この茶会と全く同じ茶会は二度とないということです。人間関係にあてはめれば、「出逢えたことに感謝しなさい」という意味になると思います。新しい先生方、友だちとの出会いを自分の成長のきっかけにしてほしいと思います。

出会いを自己の成長にした有名な人がいます。江戸幕府末期、藩ごとにばらばらだった日本を一つにまとめて国を作りかえようと奔走し、歴史を大きく変えた人物、坂本龍馬です。龍馬はたくさんの手紙を残しています。姉の乙女さん、奥さんのお龍さんなど家族には近況報告を、また時の有力者への手紙は、こんな国を作ろうという新しい考え方があふれた内容です。龍馬の手紙は、紙いっぱいに字を書き、時にはイラストありと大変ユニークな手紙で、龍馬のおおらかさや素直さ、人を思う細やかさを表しているといえます。

龍馬の手紙を研究している研究者が、龍馬が最も多く使っている言葉は何かと調べました。龍馬の手紙全部を読むと、最も使われている言葉は「はからずも」という言葉で、はからずもというのは、「思いがけず」という意味です。思いがけず遭遇した出来事や、思いがけない出会いに恵まれたこと、それらを活かして自分の道を切り開いたという龍馬の生き方を、手紙で最も使った「はからずも」に表れているのではないかというのです。

人生では思いがけず様々な出会い、様々な出来事があります。悲しいこと悔しいこと、苦しいこと、楽しいことがあります。坂本龍馬のようにそのたくさんの出会いで希望や目標を持ったり、挑戦する意欲を持ったり、自分を成長させたりできると思います。

牛込第一中学校での、新しい先生や新しい友だちとの出会いに感謝して、自分を成長させるスタートにしてください。